第３次南アルプス市総合計画
施策マネジメントシート

作成日：令和8年 7月17日
更新日：令和8年 8月 4日

政策№	5	政策名	「自然とともに、快適で住みよいまち」の実現	施策主管課	環境課
施策№	24	施策名	生活環境の保全	施策主管課長名	石田 啓
施策関連課名	（戸籍市民課）				

１ 施策の目的と指標

意図（この施策によって何をどう変えるのか）
市民一人一人が環境問題を意識し、脱炭素社会の実現に向けて、省エネルギー化やクリーンエネルギーの導入を促進し、ごみ排出量削減やリサイクルに取り組んで、地球温暖化を防止するとともにより良好な生活環境の保全を目指していく。

	成果指標（意図の達成度を表す指標）	単位
1	「南アルプス市では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」と思う市民の評価	―
2	市民1人1日当たりのごみ排出量（可燃物・不燃物）	g／人日
3	生活排水クリーン処理率	%
4	公共施設におけるCO2 排出量	t

成果指標の測定方法 どのように実績値を把握するか		
	1	市民アンケートにおいてWell-being指標を測定
	2	一般廃棄物の処理量（家庭系の可燃ごみ・不燃ごみ）を3月31日現在の人口・年間日数で除する
	3	生活排水処理人口を計画処理区域内人口で除する
	4	公共施設におけるCO2の排出量実績※指定管理施設を除く

２ 指標等の推移

		指標名	単位	数値区分	前期基本計画 R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	後期基本計画 R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
成果指標	1	「南アルプス市では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」と思う市民の評価	―	目標値	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
				実績値	3.7									
	2	市民1人1日当たりのごみ排出量（可燃物・不燃物）	g／人日	目標値	468	459	451	443	435	428	421	414	408	402
				実績値	490.0									
	3	生活排水クリーン処理率	%	目標値	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	86.0	86.5	87.0	87.5	88.0
				実績値	81.6									
	4	公共施設におけるCO2 排出量	t	目標値	4,656	4,535	4,414	4,293	4,173	4,052	3,931	3,810	3,689	3,568
				実績値	4,696									

３ 施策の役割分担

市民の役割	事業者の役割
• 身近なことから地球規模まで様々な環境問題を自分事として捉え、環境保全に対する意識を醸成します。 • 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の意識を持ち、ごみの分別と減量に取り組みます。 • 不法投棄をしない、させないことを意識します。	• 事業系廃棄物の削減を図るとともに、リサイクルやアップサイクルなどの資源の有効活用に向けた取組みを推進します。 • 事業活動において、環境負荷の軽減に向けた取組みを推進します。

４ 施策の現状と課題および状況変化・住民意見等

※現状と課題および基本計画策定時点からの状況変化・住民意見等を記載しています。

施策の現状と課題	施策を取り巻く状況変化 関係者からの意見・要望
・市が算出するリサイクル率は低下しているが、資源ごみの排出方法の多様化が要因であり、実際のリサイクルは進んでいる。また、ごみの排出量も減少傾向である。 ・不法投棄は減少傾向が続いているが、引き続き監視活動が必要である。 ・下水道や合併浄化槽の普及により、河川の水質は良好である。既設の単独浄化槽等から合併浄化槽への転換には時間がかかる。 ・金山沢川水力発電所は、施設の老朽化のため、不具合箇所が発生する恐れがある。	・スーパーやホームセンターなどでの資源ごみの回収について、企業等の協力により回収量を報告いただき、企業等の回収量を含めた概ねのリサイクル率の把握ができるようになった。 ・不法投棄対策として、防犯カメラの設置を求める意見を多数いただいている。 ・浄化槽の管理費用が年々増加しているとの相談がある。 ・単独浄化槽から合併浄化槽への転換は、家の建て替えや大規模リフォーム時に限られている。 ・ 金山沢川水力発電所において、取水口の管理に苦慮している。

５ 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
関連事業本数		34	33			
関連事業予算額（単位：千円）		1,295,679	1,259,474			
予算額の内訳	国庫支出金	4,122	4,172			
	県支出金	22,022	4,672			
	地方債	0	0			
	その他	332,657	172,081			
	一般財源	936,878	1,078,549			

６ 施策の成果水準とその背景

目標達成度 （目標値との比較）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ 目標より高い実績値だった ☑ 目標どおりの実績値だった □ 目標より低い実績値だった	・「市民の評価」は目標通りであった。（市民アンケート） ・「市民１人１日当たりのごみ排出量」は目標に届かなかった。（環境課把握実績値） ・「生活排水クリーン処理率」は目標を上回った。 ・「公共施設におけるＣＯ２排出量」は目標に届かなかった。
時系列比較 （どのように変化してきたか）	**背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）**
□ 成果がかなり向上した ☑ 成果は変わらない（横ばい状態） □ 成果がかなり低下した	・全体として、大きく変動がある要因は特になかった。 ・「市民１人１日当たりのごみ排出量」は目標には届いていないが、年々減少傾向である。 ・「生活排水クリーン処理率」は、下水道区域の拡大と住宅の建て替え等による合併浄化槽の増加により、上昇傾向が続いている。 ・「公共施設におけるCO2排出量」は、目標には届いていないが、減少傾向は続いている。
他団体比較 （近隣他市、県・国との比較など）	**背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）**
□ かなり高い成果水準である ☑ ほぼ同水準である □ かなり低い成果水準である	・「市民１人１日当たりのごみ排出量」は、目標に届かなかったが県内で上位の水準である。 ・「生活排水クリーン処理率」は、県内平均を下回っているが、下水道区域が広い地域は数値が上昇することが要因であり、山間部の多い地域の中では高い数値である。 ・「公共施設におけるCO2排出量」は、県内他市町村と人口当たりで比較すると上位の水準である。

７ 施策の方向性

• ごみの分別方法の周知徹底を行うなど、市民のごみ処理に対する意識を高めていくことにより、ごみの減量化と再資源化をさらに推進します。
• 単独浄化槽や汲み取り槽から合併浄化槽への転換を図るため、市民への周知や助成を行います。
• 金山沢川小水力発電施設の維持を図るなど、公共施設におけるCO2排出量の削減に努めるとともに、脱炭素化に向けた市民の取組みを支援します。
• 豊かな自然環境や良好な生活環境を維持するため、ごみの不法投棄の防止に努めます。

８ 施策の目標達成のための基本事業の今年度の取組（事務事業）状況・今後の課題・今後の方針

	重点事業	今年度の取り組み状況	今後の課題	今後の方針
1	ごみの適正処理、減量化及び再資源化の推進	令和7年度の途中から、可燃粗大ごみである布団のリユース・リサイクルを実施しており、継続して取り組んでいく。	・新たなごみ処理施設でビンの回収を行わないことから、ビンのリサイクルの流れを構築する必要がある ・有料ごみの品目や引取価格の見直しと利便性向上	・ビンのリサイクル体制の早期構築 ・有料ごみの品目や価格の見直し、市民サービス向上及びDXの推進
2	不法投棄防止対策の推進	不法投棄監視員の業務を見直し、より積極的な不法投棄防止の取り組みを進めていく。	・不法投棄箇所の洗い出しが必要である。 ・不法投棄物回収の方針が定まっていない。 ・夜間における不法投棄対策が必要である。	・不法投棄重点対策箇所の整理 ・不法投棄物回収方針等の策定 ・防犯カメラの設置の検討
3	合併浄化槽整備の推進	浄化槽の適正な管理を徹底するとともに、浄化槽設置整備補助金を活用し、単独浄化槽から合併浄化槽への転換を進める。	・住宅の建て替えや大規模リフォーム等のきっかけがないと単独浄化槽から合併浄化槽への切り替えが進まない。	・ 単独浄化槽から合併浄化槽へ切り替えた世帯に対し、保守・点検等の補助を行うなどの対策を検討する
4	脱炭素化の推進	・ 金山沢川水力発電所の適正な管理を行う。 ・ エコライフ補助金を活用し、市民の脱炭素の取り組みを推進する。	・金山沢川水力発電所について、停止期間や通信異常の発生が増加している。 ・エコライフ補助金の効果向上のため、補助対象品目や金額の見直しが必要である。 ・公共施設における更なる脱炭素化の推進	・金山沢川水力発電所の設備について、定期的な更新を検討する ・エコライフ補助金の補助対象品目や補助額を見直し、より効果のある脱炭素化を推進する ・公共施設における新たなCO2排出量削減施策を検討していく